



敦賀市立赤崎小学校の敦賀港総合学習を行いました

平成28年9月9日（金）午後、敦賀市立赤崎小学校の5、6年生全児童3名による敦賀港総合学習を開催しました。赤崎小学校は、敦賀港からほど近く、学校から敦賀湾が見渡せる場所にある全校児童10数名の小さな学校です。

国土交通省港湾局が作成した小学生のための港湾学習教材「港の大研究」をきっかけに、近くにありながら普段あまりなじみのない敦賀港を総合学習のテーマとしました。敦賀市の玄関口である敦賀港の歴史と役割、これからの港を考え敦賀港の認識を高めるための総合学習「敦賀港まちづくり学習」です。今回は、そのスタートとして、当事務所職員による港の講義、港湾業務艇「まつかぜ」による港内見学を行いました。

はじめに、教室で行われた講義では、室海岸課長により日本の港の役割、敦賀港の歴史や役割、施設の重要性などを勉強しました。児童からは「港ではなぜ工事をしているのか学習したい」との声もあり、港湾整備にも少し関心を持っているようです。

港湾業務艇「まつかぜ」による港内見学では、講義で聞いた施設を目の当たりにして「防波堤の長さは？コンテナは一度に何個積めるの？」と船上から見る岸壁や防波堤にとっても興味を示していました。

今後、学校の授業として敦賀港の歴史や役割などを児童自ら勉強し、11月5日に総合学習のまとめとしての発表会が行われるそうです。今回の総合学習を手始めに児童らがどのように敦賀港を勉強し、そして発表するのかとても楽しみです。



これから港の学習のスタートだ!!



真剣に、学習をしている様子



「まつかぜ」による体験乗船の様子



「無事故で下船」お疲れさまでした